【学校教育目標】 「 自分とみんなのために 心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成 」
【目指す児童像】 「 気づく子 学ぶ子 元気な子 」

玖城のほとり



大村市立大村小学校
令和８年度学校だより
第１２号
令和８年10月30日発行
文責：校長　堺　邦寿

★ 学びの秋！　～ 多くの体験活動を通して学びを深めています ～ ★

先週末から今週頭にかけての台風一過以降、めっきり秋めいてきました。しかし、日中はまだ暑く感じるほどで、昼休み時間には子どもたちは元気に運動場をかけ回っています。この時期、学校では、各学年ともに、様々な体験活動に取り組んでいます。１０月には、次の体験学習を行いました。

◆１０／５（月）

３年生イオン見学：イオンの食料品売り場の店内やバックヤード内を見せてもらい、働く人たちの様子やお客さんを集めるお店の工夫や努力についてのお話を伺いました。



◆１０／９（金）

４年生長崎見学：平和学習の理解を深めるため、長崎市の原爆資料館、爆心地公園、平和公園を見学し、平和への願いを込め、大村小の代表として大小っ子全員で折った千羽鶴を届けてきました。また長崎市科学館にも行き、理科の学習への意欲を高めました。

２年生ミライ on 図書館見学：自分たちの町の中にある公共施設であるミライ on 図書館の施設や働いている人の仕事の様子について、見学を通して学びました。



◆１０／１４（水）～１５（木）

５年生宿泊学習：国立諫早青少年自然の家での自然体験を通して、自然の美しさを知り、学校とは違う環境の中での集団行動を通して、協力することの大切さ、学級や学年の連帯感、集団生活の決まりを守ることの大切さを学びました。

◆１０／２０（火）

５年生スクールコンサート：長崎 OMURA 室内合奏団の方々によるアウトリーチ（出張型）コンサートが開催されました。プロの演奏を聴いた子どもたちは、その魅力に引き込まれるかのように真剣な眼差しで演奏を聴いていました。子どもたちの歌声も褒めていただきました。

◆１０／２９（木）

６年生小学校体育祭：爽やかな秋晴れのもと、市内の６年生 1,087 名が一堂に会しての小学校体育祭が開催され、これまでの練習の成果を存分に発揮してきました。子どもたち一人一人が自分の努力を通して、やり終えた後の満足感や成就感を味わいました。結果は次号でお知らせします。

★ 地域友好祭「くろもん祭り」10 月 17 日(土) ★

今年度の「くろもん祭り」は、様々な催しや中学生はこれまでの１年生に加えて２年生の参加、獅子舞、龍踊のご披露もあり、多くの方々にお越しいただき、大変盛り上がりました。

「くろもん祭り」が始まったのは平成１６年。今年で２３年目、回数は２０回目を迎えました。この「くろもん祭り」には、「地域友好祭」という冠がついています。そして、この「地域友好祭」という言葉に、「くろもん祭り」がはじまった当時の PTA の方々をはじめとした多くの方々の願いが込められています。地域のおじちゃん、おばちゃん、学校にお子さんやお孫さんがいる人もいない人も気軽に参加してもらい、大村小学校の子どもたちと地域の方々が、顔見知りになることで、子どもたちを地域のみんなでよりよく育てていこうという趣旨です。だからこそ、大変ですが、PTA の方々や健全協の皆様をはじめとした多くの方々のお力による手作りのお祭りとして長く続いています。これからの教育においては、これまで以上に、学校だけでなく、保護者の方々、地域の皆様と一緒になって、子どもたちを育てていく必要があります。何かをやるのは、本当に大変です。わが子だけでなく地域の子どもの笑顔のためにお力添えをいただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

※裏面に、木村指導教諭作成「みんなちがってみんないい(その６)」を載せています。ぜひご覧ください。

～みんなちがって みんないい　（その６）～

今月から神経発達症（発達障害）について、症状ごとに少し詳しくお話ししていきます。今回は「限局性学習症（ＳＬＤ/ＬＤ）」についてお話しします。内容は昨年と同じです。

「限局性学習症」より「ＬＤ」の方が聞き馴染みのある方が多いのではないでしょうか。「ＳＬＤ」は「Specific Learning Disorder」の略で、世界共通の診断基準書であるＤＳＭ-５（アメリカ精神医学会診断マニュアル）に示されている診断名となります。

「ＳＬＤ」は全般的な知的能力に遅れはないものの「文字の読み書き」「文の意味を理解する」「推論する」「計算する」「表や図を読み取る」などの学習能力の一部だけが極端に抜け落ちている状態を指します。

「ＳＬＤ」で有名なのが、映画俳優のトム・クルーズです。映画「トップガン」や「ミッションインポッシブル」などをご覧になった方も多いのではないでしょうか。

彼がＳＬＤであることは広く知られていて、彼自身もＳＬＤであることを公表し、広く理解と支援を得るための活動を行っています。彼は文字の読み書きが苦手なタイプのＳＬＤで、**読字障害（ディスレクシア）**と**書字表出障害（ディスグラフィア）**の両方であると言われます。文字が上手く読めないので、映画の台本はスタッフや家族に代読してもらったものを録音し、それを何度も聞きながらセリフを覚えています。現在はある程度、字も書けるようになったそうですが、デビュー当時は自分のサインもきれいに書けなかったようで、サインの一部が鏡文字（左右逆転した文字）になったものもあったそうです。彼は幼少期、ＳＬＤの為にいじめられたこともあり、それが原因で転校もしています。

ＳＬＤで有名な芸能人は他にもウーピー・コールドバーグやオーランド・ブルーム、ジム・キャリーなどのハリウッド俳優や、スティーブン・スピルバーグなどの映画監督など数多くいます。日本でもミッツ・マングローブさんがＳＬＤであることを告白されています。

ＳＬＤは前述の「読字障害」「書字表出障害」の他にも、計算や数量が理解できない**「算数障害（ディスカリキュア）」**もあります。

学校の場でいくつか例を挙げてみます。

① ディスレクシア（読字障害）の場合

・計算はできるが、文章問題はできない。
・社会や理科のテストはある程度できるのに国語のテストが難しい。
・年齢不相応な漫画や童話の本しか読まないまたは眺めているだけ
・会話は問題無く、意味も理解している。

② ディスグラフィア（書字表出障害）の場合

・書字が雑で、中には本人でさえも読めない字がある。
・ノートや連絡帳の書き写しに時間が掛かる
・拗音や促音表記の間違いが多い。

③ ディスカリキュア（算数障害）の場合

・簡単な四則計算に時間が掛かったり、間違いが多かったりする。
・九九がなかなか覚えられず、中高学年になっても言い間違える。
・図形問題や単位の変換で間違いが多く、量の学習が苦手。

上記はほんの一例ですが、お子さんの様子で思い当たることはありませんか？

ＳＬＤは医療機関での検査によって、正しく状態を把握することができます。

ＳＬＤの人は普段の生活からは全く困り感が感じられません。会話からも分かりにくく、他の人と変わらないので、本人さえも自覚が無いことがほとんどです。そのため、学習面における自己肯定感だけがとても低く、「自分は勉強が苦手で、さっぱりだったから」とか「自分は体を動かすことは得意だけど、ペーパーは・・・」などの認識で自分を納得させている人が少なくありません。運転免許の筆記試験などに苦労する人もいます。子どもの場合は、「やればできるのに・・・」や「学習ができないのは本人の努力不足」と捉えられやすく、中には「勉強できなくても生きていけるから大丈夫」と安易に考えてしまうことがあるため、本来の能力を発揮できないまま、進学や仕事など将来の選択をしてしまう人も多いのです。

ＳＬＤは根本的な改善は難しいのですが、個人の特性に合わせて軽減する方法を見つけていくことができます。どうすれば苦手さ困難さを軽減できるのか、どのような進路選択があるのかなど、健やかな成長のために今を大切にしてあげることが重要です。